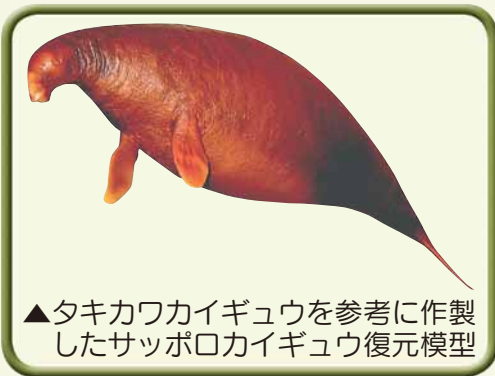




札幌初の大発見

▲カイギュウの化石発見直後の発掘で、ろっ骨4点と胸つい3点、胸骨1点が確認できました。

平成14年（二〇〇二年）、南区在住の少女が、家族と一緒に自然探索に訪れていた豊平川で、不思議な化石に気付きました。いつも見ている化石とは違うとお父さんに見せると、その化石を見たお父さんは「何か大きな動物の化石かもしれない」と翌平成15年（二〇〇三年）、化石に詳しい理科の恩師に相談。専門家に確認を依頼することとなり、その結果カイギュウの化石であることが分かりました。これまで、札幌では貝などの無脊椎動物の化石は見つかっていましたが、脊椎動物の化石は見つかっておらず、札幌初の脊椎動物の化石という大発見となりました。



▲タキカワカイギュウを参考に作製したサッポロカイギュウ復元模型

カイギュウとは、海に住む哺乳類で、海藻（草）類を食べる唯一の草食動物です。今生きている仲間には、「人魚」に間違えられたジュゴンやマナティーがいます。サッポロカイギュウは、化

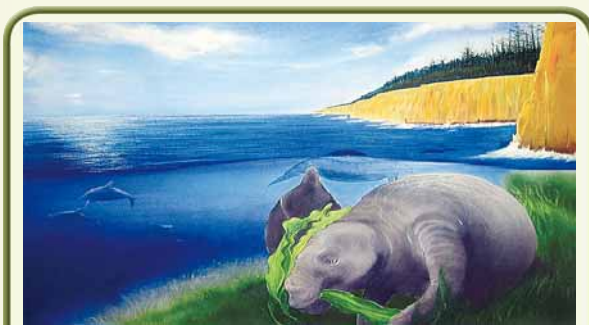
サッポロカイギュウってどんな動物？

調査によって、当初発見されたカイギュウの別の部分の化石や別のカイギュウの化石、クジラ類、魚類などの化石も発見されました。平成17年（二〇〇五年）、札幌市はこのカイギュウを「サッポロカイギュウ」と命名しました。

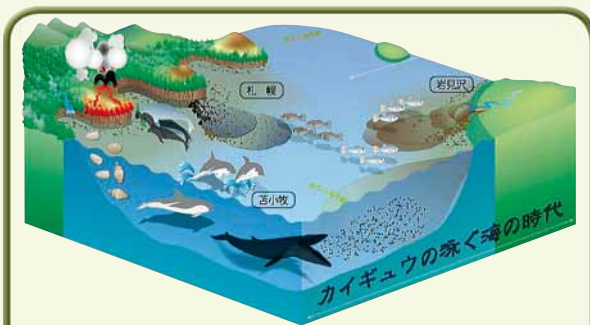
どんなところに住んでいたの？

札幌市は、定山溪付近の一部を除くすべてが海だった時代がありました。定山溪付近には島が点在し、島の周囲は切り立った高い崖で、その上には針葉樹の森が広がっていました。当時の海は寒冷でしたが、時には暖流も流れ込み、サッポロカイギュウは、この島周辺の浅瀬で海藻類を食べながら、群れで生活していたと推測されています。

また、化石となって発見されたカイギュウは、定山溪付近の浅瀬で一生活を終えた後、少し沖合の水深一〇〇mを超える小金湯付近まで流され、深い海底に沈み、長期にわた



▲サッポロカイギュウが生息した環境のイメージ図



▲海の時代（820万年前）のイメージ図

って海底で露出することなく短時間で泥の中に埋没したと思われる。